

令和3年度県産材生産量について

1 要旨

本県では、令和3年度から、「2025広島県農林水産業アクションプログラム」に基づき、将来にわたって毎年40万 m^3 を持続的に生産できる体制整備に取り組んでいるところであり、この度、令和3年度の県産材（スギ・ヒノキ）生産量が確定したので報告する。

2 背景

年間40万 m^3 の県産材を持続的に生産するため、傾斜が緩く道から近い等の好条件を備え、持続的な林業経営を行うことが可能となる事業地の集約化や担い手の育成などの生産基盤の整備、森林に関する情報を関係者が共有して利活用するデジタル情報基盤の整備及び再造林を確実に実施するため等の技術基盤の整備に取り組んでいるところである。

3 概要

(1) 調査対象

県内における全ての素材生産業者88者と原木流通業者7者

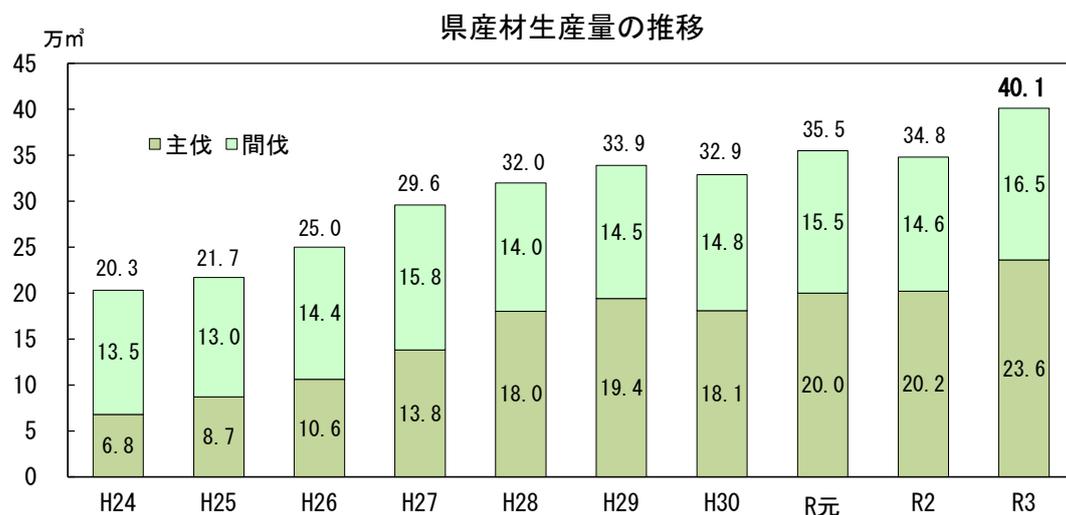
(2) 調査期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(3) 調査結果

令和3年度の県産材生産量は前年度比115%となり、初めて40万 m^3 に達した。

主な増加要因として、①高性能林業機械の導入支援等により、林業経営体の生産能力が向上し、年間40万 m^3 を生産できる体制が概ね整備された、②「ウッドショック」により、県産材の製品に対する強い引き合いが続いたためと考えている。



(4) 今後の対応

現在、木材価格については、隣県の合板工場火災の影響で一部の品目で余剰感が出ているものの、円安や海上輸送運賃の上昇等の影響で国産材への引き合いがあることから、「ウッドショック」のピーク時に比べて下がり傾向に転じている中でも、全般的には、例年を上回る水準で推移している。

こうした状況を県産材の販路拡大を図る好機と捉えて、高性能林業機械や加工施設の整備に対する支援等を通じて、川上から川下までの県産材のサプライチェーンの強化を図る。